

## 平成 28 年度第 2 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「春の魚たち ～小さな水路の大きなはたらき」を実施しました。

開催日時：平成 28 年 4 月 23 日（土）午前 9 時 30 分から午後 4 時 00 分まで

開催場所：銚田市当間 巴川周辺の水田水路

参加者：41 名

霞ヶ浦自然観察会では毎年春の農業水路での観察会を行っています。今回は昔ながらの土水路が残っている銚田市の巴川下流域の農業水路にて観察会を行いました。

メダカやドジョウなどは、今回の観察地の水路のように浅くて流れの緩やかな自然の残る水路に生息しています。また、春の農業水路や水田の浅い水域は、水温も上がりやすく、大型魚に捕食されることも少なく、稚魚のエサとなるプランクトンが多く発生するため、フナのなかまやコイなどがこの時期に農業水路に産卵のためにやってきます。

当日は絶好の観察日和になりました。観察地の水路がある水田はまだ水を入れていなかったため、水路の水も少ない状況で、コイやフナ類の産卵のための遡上はまだ始まっていませんでしたが、無数のメダカの群れが水路のあちこちで波紋を広げていました。

早速、参加者のみなさんと観察する生き物の採集を開始しました。メダカやドジョウなどの水田域を代表する魚をはじめ、水生昆虫やタニシのなかま、カエルやオタマジャクシなどが次々と集まりました。また、水田わきの水路と農道を挟んで反対側にある少し大きな水路に仕掛けたビンドウには美しい婚姻色を出したオスのタイリクバラタナゴや産卵管を長く伸ばしたメスのタイリクバラタナゴがたくさん入りました。

昼食・休憩を挟んで午後も採集を行いました。最終的に 6 種類の魚をはじめ、いろいろな生き物が見つかり、この小さな水路が多く生き物をはぐくんでいることが分かりました。

最後に参加者全員で採取した生き物を観察しました。メダカのオスとメスの見分け方やウシガエルとアメリカザリガニの関係などについても学習しました。

今回、たくさん見られたメダカですが、日本にはミナミメダカとキタノメダカの二種類があります。キタノメダカは日本海側の一部地域に生息しており、この地のメダカはミナミメダカです。そしてミナミメダカはさらにたくさんの地域集団に分かれることも説明しました。遺伝子の多様性は小さい参加者には難しい内容だったかも知れませんが、メダカの保護は現在の生息地を守って行くために大切なこと、安易な放流はかえってメダカを絶滅の危機に追い込むことになるかもしれないことを最後に話しました。

今回の観察地の水路がいつまでもメダカの楽園で有り続けることをみなさんで願いながら、観察会を無事に終えることが出来ました。

参加者の皆さん、パートナーの皆さん、当日はお疲れ様でした。

環境活動推進課 福井正人

今回、観察した生き物は次の通りです。

魚 類：ミナミメダカ、ドジョウ、タイリクバラタナゴ、モツゴ、ギンブナ、ニゴイ

貝 類：ヒメタニシ、オオタニシ 甲殻類：アメリカザリガニ

水生昆虫：タイコウチ， ミズカマキリ， コオイムシ， ヒメゲンゴロウ  
両生類：トウキョウダルマガエル， ウシガエルオタマジヤクシ

観察会の様子と観察した生き物の一部を御紹介します。



ミナミメダカです。

この小さな水路にたくさんの生き物がいました。



コオイムシ

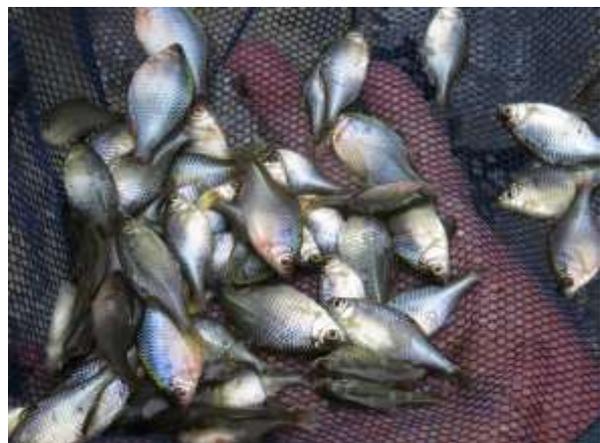
タイコウチ，  
ミズカマキリ（右）



大きなアメリカザリガニ。



集めた生き物を観察します。



タイリクバラタナゴがたくさんいました。